

<新設教科>あさひの Learning（学際的な学習の時間）

1 あさひの Learning（学際的な学習の時間）の目標

各教科の枠組みだけでは解決できない、現代社会の諸問題や SDGs にかかわる諸問題などの学際的な諸問題をテーマに設定し、各教科の見方・考え方を働かせて、探究的な学習を行うことで、各教科での学習を、実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学びを行う。また、そのために必要な知識や技能を身に付ける学習も行う。

2 あさひの Learning（学際的な学習の時間）の概要

教科学習を土台としながら、これらを、社会とのつながりを意識して、連続的・発展的に学びを深め、自立した学習者の育成を図るために、既存の教科・領域に、新たに「キャリア×STEAM」領域を加えた教育課程の編成を考えた。ここでは、生徒と実社会をつなぐ教科横断的・学際的な学びである「あさひの Learning」と、デザイン思考に基づく社会参画型の「あさひのプロジェクト」の二つのタイプの学びを構成し、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学びを構想した。「あさひのプロジェクト」については、総合的な学習の時間で運用していくこととし、教科学習と「あさひのプロジェクト」をつなぐ学びとして、全学年において「あさひの Learning」を新設した。

3 あさひの Learning（学際的な学習の時間）の新設理由

本校の生徒は、将来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒が多い。一方、通学区域が広範囲にわたることもあり地域との関わりが希薄であること等が課題である。この実態から、本校生徒には、「キャリア×STEAM」領域を位置付け、地域や実社会と関わる中で解決すべき問題を見だし、主体的・協働的に解決していく中で資質・能力を育むとともに、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるようになる、教科の枠を越えた学習であると考えた。

4 指導計画

(1) 指導の方向

現代社会の諸問題や SDGs に関わる諸問題などの学際的な諸問題をテーマに設定し、各教科の見方・考え方を働かせて、探究的な学習を行うことで、教科の枠を越えた視点から、追究、解決を図る探究的な学びを行うことで、削減する各教科の指導内容と総合的な学習の時間の指導内容を補完する。

(2) 授業時数

教科	1 学年	2 学年	3 学年
国 語	132 (-8)	132 (-8)	100 (-5)
社 会	100 (-5)	100 (-5)	132 (-8)
数 学	132 (-8)	100 (-5)	132 (-8)
理 科	100 (-5)	132 (-8)	132 (-8)
音 楽	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
美 術	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
保健体育	100 (-5)	100 (-5)	100 (-5)
技術・家庭	66 (-4)	66 (-4)	34 (-1)
外 国 語	132 (-8)	132 (-8)	132 (-8)
特別な教科 道徳	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひのプロジェクト (総合的な学習の時間)	50 (0)	60 (-10)	60 (-10)
特別活動	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひの Learning (学際的な学習の時間)	45	55	55

(3) 学習内容

① テーマ学習… 1つのテーマを解決するために、教科の枠にとらわれずに追究する学習

「持続可能な社会と私」(1学年)

<目 標>

「持続可能な社会」をテーマに、現代社会の諸問題やSDGsに関わる諸問題について、これまで行われてきた取組についての理解を深めたり、今後継続すべき取組や新しい取組を考えたりする。各教科での学習が、実社会での問題発見・解決に生かされていることを認識する。

<つきたい力> 問いを立てる、先行研究や先行事例を調べる

<時 数> 10 時間

<単元の流れ>

- ・テーマに対する問いを立てる
- ・いくつかの教科の解説動画を視聴する、資料を見る
- ・テーマに対する問いの答えをまとめる
- ・学級内、学年内で情報交換・発表会をする（フィードバックをもらう）
- ・最終的な問いの答えをまとめ、単元の学習を振り返る

「2040 年問題と私」(2 学年)

<目 標>

「2040 年問題」をテーマに、現代社会の諸問題やSDGsに関わる諸問題を見だし、それらを解決するためにはどのような技術や人材が必要かを考える。各教科の枠組みだけでは解決できないことを理解し、各教科での学習を、実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学びの必要性を理解する。

<つきたい力> テーマからリサーチクエスチョンを導く、仮説を立てる、探究活動の計画を立てる

<時 数> 5 時間

<単元の流れ>

- ・テーマに対する問いを立てる
- ・いくつかの教科の解説動画を視聴する、資料を見る
- ・テーマに対する問いの答えをまとめる
- ・学級内、学年内で情報交換・発表会をする（フィードバックをもらう）
- ・最終的な問いの答えをまとめ、単元の学習を振り返る

「あったらいいな、こんなもの」(2 学年)

<目 標>

「発明品」をテーマに、デザイン思考を活用して、身近にあるニーズから校内で解決すべき問題を発見し、それを解決するアイデア（発明品）を発想・創造する。発想・創造したアイデアのコンセプトを提案し、評価を受ける。評価を基に、問題発見や解決方法について振り返り、社会参画型の「あさひのプロジェクト」の学習につなげる。

<つきたい力> テーマからデザイン思考を活用してアイデアを発想・創造する

<時 数> 10 時間

<単元の流れ>

- ・身近にあるニーズから校内で解決すべき問題を発見する
- ・解決するアイデア（発明品）を発想・創造する
- ・学級内、学年内で情報交換・発表会をする（フィードバックをもらう）
- ・最終的な解決するアイデア（発明品）をまとめ、単元の学習を振り返る

「AI と人類の共存」(3 学年)

<目 標>

「AI 活用による倫理問題」をテーマに、現代社会の諸問題について、問題の原因を明らかにし、解決方法を見いだす。各教科の見方・考え方を働かせて、今後必要となる倫理観（価値観）について、納得解を見いだす。

<つきたい力> 仮説を検証する調査・実験方法を計画する、結論を論文などにまとめ発表する

<時 数> 15 時間

<単元の流れ>

- ・テーマに対する問いを立てる
- ・いくつかの教科の解説動画を視聴する、資料を見る
- ・テーマに対する問いの答えをまとめる
- ・学級内、学年内で情報交換・発表会をする（フィードバックをもらう）
- ・最終的な問いの答えをまとめ、単元の学習を振り返る

② ユニット学習… 1つのテーマを解決するために、2～3教科でユニットを組み、追究する学習

各教科の枠組みだけでは解決できない、現代社会の諸問題やSDGsに関わる諸問題などの学際的な諸問題をテーマに、各教科の見方・考え方を働かせて、教科横断型の探究的な学習（STEM教育を含む）を行う。テーマに対する問題発見・解決の過程を振り返り、各教科での学習を、実社会での問題発見・解決に生かしていくことができる有用性を実感したり、自覚したりする。

③ 講座学習…探究的な学びに必要な資質・能力についての理解を深め、身に付ける学習

※講師による講演会や、職員による講座、生徒同士の座談会などの形態で、定期的に行う。

講演会実績

- ・6/26(木)『10年後の社会の未来像を描けますか?』牛越弘彰（株牛越製作所代表取締役）
- ・9/11(水)『探究って仕事になるんですか?』岡根谷実里（世界の台所探検家）
- ・10/2(水)『昆虫の知能はAIを超えるか?』神崎亮平（東京大学名誉教授 先端研フェロー）
- ・11/13(水)『なぜ社会奉仕を実践し続けるのか?』長野白樺ライオンズクラブ/朝陽野レオクラブ
- ・1/22(火)『水を安全に変えることが未来につながる?』信大卓越教授 手嶋 勝弥氏

「STEAM・探究講座」（全学年）

- ・経済産業省「未来の教室」が運営する、STEAM教育を通じてSDGsに掲げられる社会課題の解決手法を学べるオンライン図書館『STEAMライブラリー』を活用した授業を体験する。
- ・デザイン思考のステップ1：共感・理解、ステップ2：問題定義、ステップ3：発想・創造、ステップ4：試行、ステップ5：検証 についての理解を深め、デザイン思考を活用したアイデア発想を体験する。
- ・研究テーマの見つけ方や問い（リサーチクエスト）の立て方などの課題研究の土台部分を、教材『課題研究のメソッド』を用いて学ぶ。

「キャリア講座」（2～3学年）

- ・社会人基礎力の「前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）」、「考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）」、「チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）」についての理解を深め、自己の生き方との関係性を見いだしていく。

「スキルアップ講座」（全学年）

- ・ビジネスマナー（挨拶、所作、名刺交換、電話・メール対応など）、プレゼンスキル（資料作成、話し方など）、コミュニケーションスキル（聴き方、質問の仕方など）など、社会に出たときに必要となるスキルを身に付ける。

(4) 評価計画

育てようとする資質・能力及び態度に基づいて、単元ごとに評価規準を決めだし、ワークシートや生徒の追究の姿、レポート等の成果物から評価していく。

5 研究内容

(1) 研究の重点

- 全体計画をもとに、教科学習と「あさひのプロジェクト」をつなぐ学びという視点で、単元配列や展開について、さらに研究をしていく。
- 単元ごとに決め出された評価規準及び単元展開が適切なものであったか、単元評価を位置付け、各学年の実情に適した学習評価や単元展開がなされているのか確かめていく。

(2) 研究授業の計画・運営

- 成果発表会、公開研究会

6 運営

(1) あさひの Learning（学際的な学習の時間）の計画・運営

- ・あさひの Learning（学際的な学習の時間）の係および研究部が中心となって計画立案し、教科会・学年会で共通理解と協力体制を確立していく。
- ・異学年との連携・交流を踏まえ、授業時間はヒューマン・ウィークを含めて、通年、全校一斉に実施する。ただし、学習展開や時間の割り振りは、係や研究部で計画をする。

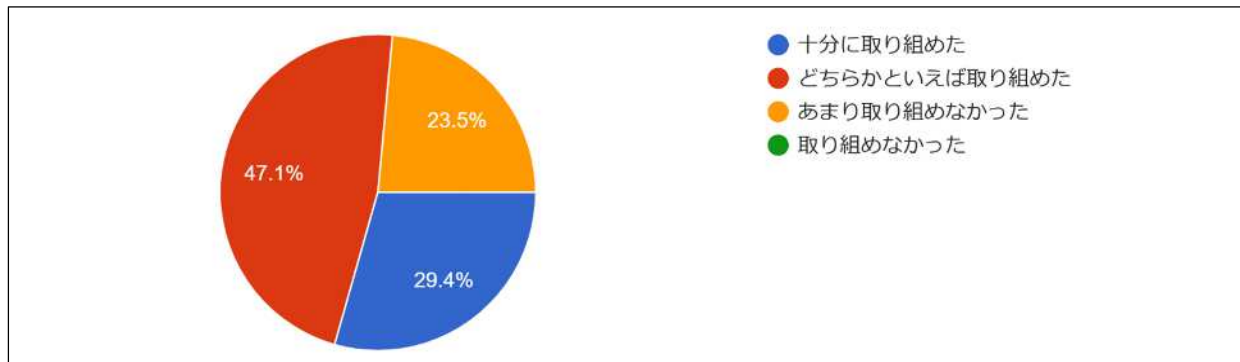
(2) 生徒の活動の記録、まとめ資料（レポート）、評価事例の累積

- ・デジタル化したり、記録に残したりして、カリキュラムの評価や次年度のオリエンテーションに活用する。

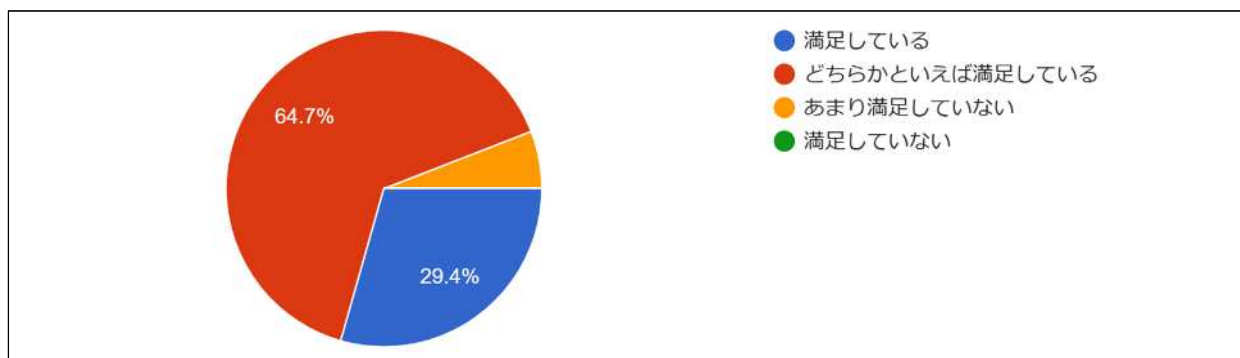
7 評価

(1) 教員評価

① あなたは、あさひのラーニングの授業に対して意欲的に取り組みましたか。(17 件の回答)



② あさひのラーニングの授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか。(17 件の回答)



③ ②でそのように答えた理由 (※任意) (15 件の回答一部抜粋)

【満足している】

- ・学んだことをプロジェクトに生かしている生徒もいて、価値を感じた。問いを立てることはいろんなことにつながっていいと思った。

【どちらかといえば満足している】

- ・教科と総合をつなぎ合わせるラーニングと考えたときに、テーマ学習がどのようなものをねらうかがいまひとつはっきりしなかった。来年度は、テーマ学習を行うとすれば、さらに検討していく余地があるかと思った。
- ・3年生のラーメントップINGは、総合との線引きがあいまいだったように思う。何をもってラーニングか、何をもって総合かの線引きが必要。これがこちらではっきりしないと、生徒や保護者をもっと分からないと思う。ラーニングの評価をどのようにとらえていくのか、来年度さらに検討していく余地がある。
- ・生徒は授業を行うたびに意欲的になっていったように感じ取れたので、魅力的な単元が組まれていたと思う。ただ、生徒の意識に沿った導入や、今回の学びをあさひのプロジェクトにどのようにつなげるのかということは改善の余地があるように思うので、来年度はさらによりものができるのではないかな。
- ・一生懸命考えた問いが練習用というのは個人的には生徒軽視なのかなと感じる。せっかく検討し合った問いが自分に残らずというのはやはり寂しかった。これがあさひのプロジェクトにつながるようなカリキュラムの配慮、マネジメントができればいい。
- ・生徒の姿からは、意欲的に学びに向かおうとする姿があってよかったと思った。課題を捉えて、それに対する解決策を、試作を作ることによって考えていく思考をしっかりと学べるものになったのではないかな。また、教科横断の視点では、教師の見取りの大切さを改めて感じた。振り返りの中で、どの教科を教科横断できたかについて記述されているものがあつたが、その捉えが教師と生徒でズレがあると思った。生徒は、「コンテンツ」の面から振り返る姿があり、教師は「コンピテンシー」の面から捉えようとしていたように思う。このズレをなくしていくことで、よりあさひのラーニングの特徴を示すことができ、教科の探究とのつながりにも生きてくるのではないかなと思った。

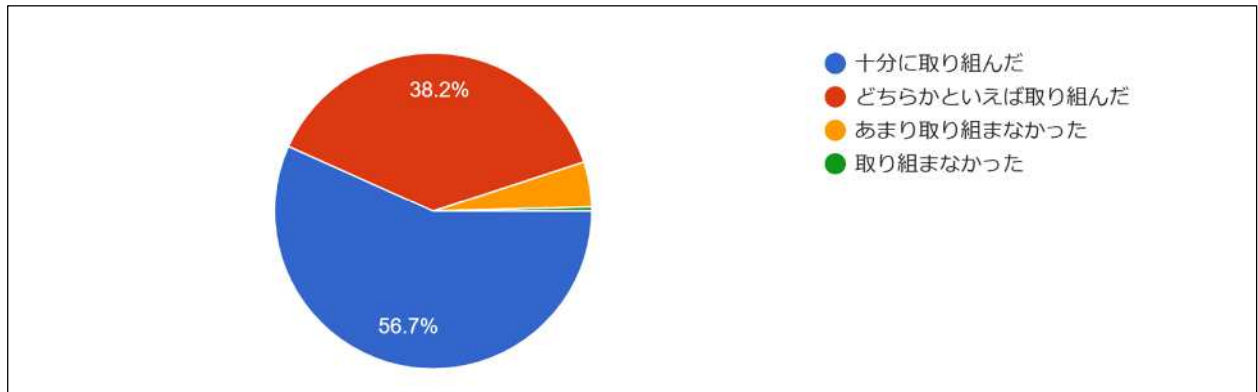
【あまり満足していない】

- ・授業者ばかりに負担をかけてしまった。また、内容理解が乏しく、何をすればよいかわからなかった。

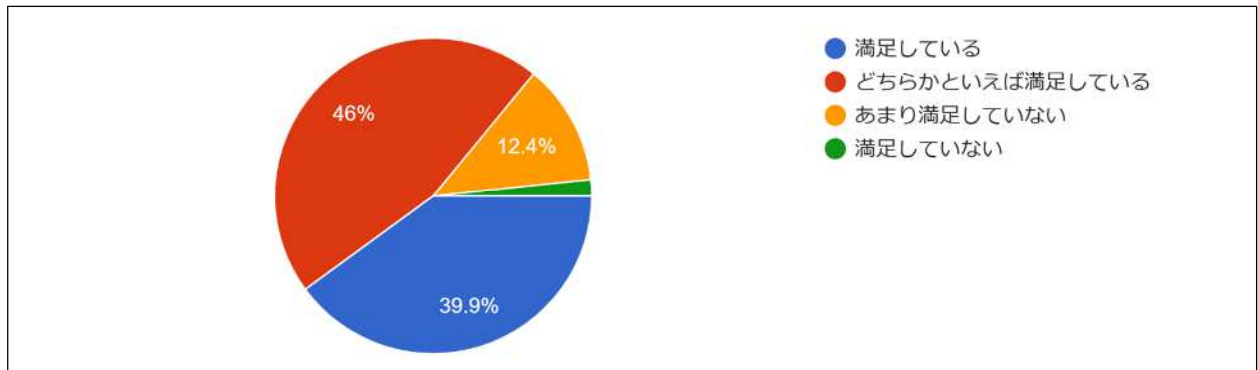
【分析】①、②の結果から、大半の教員が肯定的な受け止めをしていると考えられる。ただし、自由記述からも改善の必要性が見えている。今回の新設教科「あさひのラーニング」は、教科学習と総合的な学習の時間をつなぐ位置付けとしているが、総合的な学習の時間との差異がやや曖昧な点もあるため、目標や内容、指導方法、評価を一層明確にする方向で改善に取り組んでいく。

(2) 生徒評価

① あなたは、あさひのラーニングの授業に対して意欲的に取り組みましたか。(476 件の回答)



② あさひのラーニングの授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか。(476 件の回答)



③ ②でそのように答えた理由（※任意）(311 件の回答 一部抜粋)

【満足している】

- ・教科の枠を超えていて新感覚の授業だったから
- ・①だと「持続可能な社会と私」ではかなり真面目に調べて、まとめることができたが、リサーチクエスチョンを見出す授業では、少し意欲的に取り組めなかったから。②だと、リサーチクエスチョンを見出す学習は、そのままあさひのプロジェクトにつながっているし、持続可能な社会と私は効果的な資料の使い方や調べ方がわかったから。

【どちらかといえば満足している】

- ・悩んだけれど自分が解決したい問題について決めることができたから。
- ・持続可能な社会について考えて、自分のできることも考えたりできたから。
- ・活動自体は楽しかったから満足はしているがどんな目的でやるかどんな進捗で進んでいくかをもちとはっきり示してほしかった。グループでの活動は無造作にわけるのはなくある程度話が合う人と組んでほしい。(MBTI などを活用してみても良いかも) PC での作業だと壁ができて良い話し合いができなかったので紙面などでのグループワークが良いと思う。

- ・自分たちで願いを決めだして一から構想していくことが大変だったけどやりがいがあったから。でも、すこし楽しいより難しいという気持ちのほうが勝ったので、楽しめなかった。

【あまり満足していない】

- ・開発の過程では企業の方からアドバイスを頂いたり外国の方と話してトッピングを考えたりできたが、実際にサンプルにするとところまでいかなかったため中途半端に終わってしまったから。また、アドバイスを頂いたあともう一度じっくり練り直してもう一度企業の方に見てもらおうところまで行ければよかったと思う。

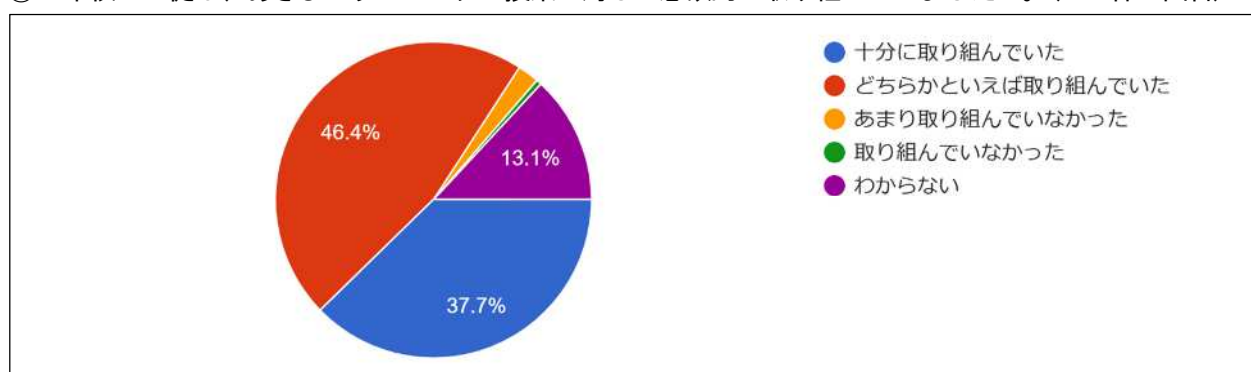
【満足していない】

- ・いろいろな要素を詰め込んだ結果あまり得るものがなかったように感じたから。

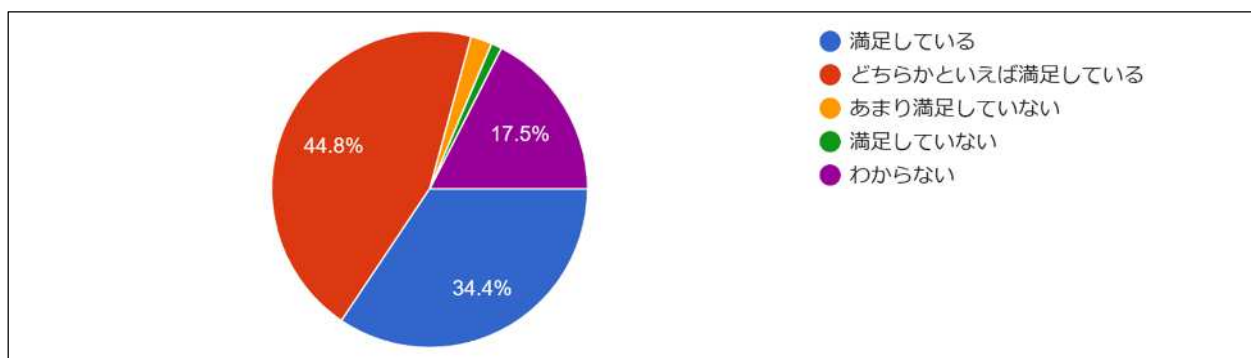
【分析】肯定的な評価が多い一方で、否定的な評価が教員よりも高くなっていることを大切に考えたい。その原因として、内容が多岐にわたったことで「詰め込み」感を与えたことや、思考プロセスの指導を重視したり、総合的な学習の時間との差異を打ち出そうとしたりしたために、追究が、アイデア発想やプロトタイプ製作までで終了してしまったことが考えられる。生徒に中途半端な印象を抱かせてしまった内容を精査し、教師主導ではなく生徒の意識に沿ったものにしていく必要がある。

(3) 保護者評価

① 本校の生徒は、あさひのラーニングの授業に対して意欲的に取り組んでいましたか。(183 件の回答)



② あさひのラーニングの授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか。(183 件の回答)



③ ②でそのように答えた理由（※任意）(52 件の回答一部抜粋)

【満足している】

- ・子供達の将来は、私達親世代が経験してきた学びだけでは解決できない事が沢山あるのだと思います。社会の諸問題を見つけ、解決していく為の力を身につけ、それを実生活で生かせるよう、学校で学べたことは大きいと思います。
- ・講座等でたくさんの人との出会いがあったり、他のクラスのメンバーと話し合ったりと、知識だけ

ではない、他にもたくさん得るものがあったと思えるから。

- ・授業を参観させていただきましたが、教科の学びとは違う面白さを感じながら、受け身ではなく生き生きと課題に向き合う姿がありました。

【どちらかといえば満足している】

- ・班で意見を出し合いながら、一生懸命に考え行動していたと思うので。仲間と共に何かを考え行動を起こしている時は、たとえ困難な課題だとしても、楽しそうだし、達成した時の喜びも大きいのだとも思いました。
- ・教科を越えての自発的な学びや、社会と自分について考え行動するというアクティブラーニングについては期待が大きいですが、客観的な評価が難しいため 1 年生から 2 年生で積み重ねがどれくらいできているのか判断が難しく感じる。子どもたちは非常に楽しそうに意欲的に取り組み学んでいるように思う。
- ・公開授業を拝見しました。具体的な課題を、みんなで考えていた姿が印象的でした。先日の音楽の授業参観では、歌詞の意味を考えて表現する方法を考えていましたが、国語の授業の要素もあると感じました。普段の授業から、さまざまな教科の学びを複合的に活かせる時間があるといったえ思います。
- ・文に理系の要素を加え様々な分野を融合させて、追求し解決していくという点は、中学生にもできているという点で、あさひの learning の素晴らしさを感じたが、中学生が学ぶべき各教科の時間を減らしてまで、今すべきなのはなぜなのかという問も出る。

【あまり満足していない】

- ・輝いている生徒は率先して発表し、控えめで自己主張の少ない生徒はタイムキーパーをやったり言葉も発せず陰に隠れていたりするイメージでした。どの生徒も自分の思いや成果を声に出して伝えることが出来れば、自信にもつながり深く考えるような良いきっかけになるのではないのでしょうか。

【満足していない】

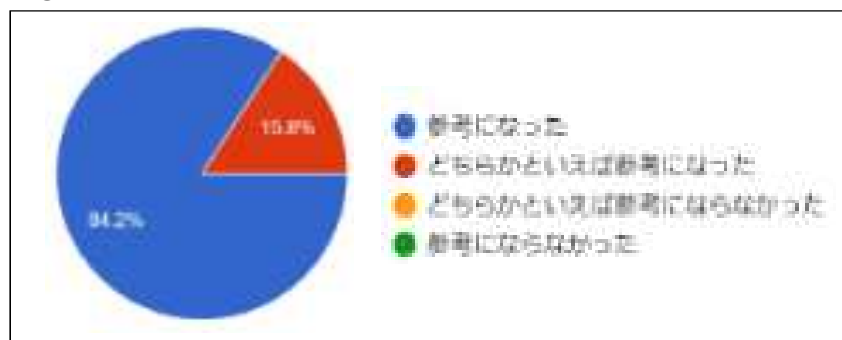
- ・やることがすでに決まっていて、教科の授業との差があまり感じられず、探究学習へのつながりがあまり感じられなかった。もっと子どもに任せる時間にした方がよいのではないか。

【分析】肯定的な回答が約 8 割となっており、新教科を設定する趣旨や目的については概ね理解を得られたと考えられる。グループ等の小集団で学ぶ場面では、一人ひとりの生徒の学習保障をどのように図っていくかが課題となっており、評価のあり方をさらに究明していきたい。情報発信については HP や SNS を活用しているが、授業や成果発表会の参観以外の、保護者への情報発信が課題であったため、各学年だより等で紹介するようにしてきている。

(4) 外部評価

令和 6 年 10 月 18 日（金）中学校教育研究会（公開研究会）参加者アンケートから（回答 38 件）

① 新設教科あさひのラーニングについて



「参考になった」 84.2%
「どちらかといえば参考になった」 15.8%
(定的な回答が 100%)

② 自由記述（抜粋）

- ・今回のあさひのラーニングで、中学校の総合的な学習の時間において重要なことの一つとして、地元の企業や人と関わり、専門性に触れながら大人と協働していくことの大切さを感じました。
- ・系統性が素晴らしいと感じました。私の学校では、それぞれの職員に任されているところがあり

ます。職員が目指すべき方向をそろえ、進んでいる様子がよく伝わってきました。

- ・探究のレベルという点について、自分自身の実践と改めて照らし合わせて考えていきたいと思いました。
- ・学びの系統性・研究の枠組み・全体像がしっかりと見える研究であること、また、目指しているところが明確でそのための手立てを今回新設された「あさひのラーニング」で実践されているところ等々、大変学ばせていただきました。
- ・ラーニングとプロジェクトとが、見える活動(これも見せ方?)という意味では同じようなことをしているように見えてしまっているとは思いました。一年生徒の感想で、ラーニングのリサーチクエストがプロジェクトに使えるのだという紹介がありましたが、ラーニングは徹底して問いを立てることそのものを扱ってみたらそれはそれで面白くなりそうと思いました。かなり完全な差別化をしてみても良いのではと思います。因みに、探究の問いとリサーチクエストとは、先生方そして生徒達の中では区別されているのでしょうか。私個人としましては、探究の問いそのものは答えが出ない部分も含まれたかなり壮大な感じで、その中でリサーチクエストはある程度の解が納得して出される部分という関係で、探究の問いの中に集合としてリサーチクエストが含まれるイメージに受け取れました。”
- ・「あさひのラーニングで学び方を学ぶ、つまり探究的な学びの方法を知識として身に付けておくこと」⇒時代の要請にきちんと合致する内容であると思います。先行研究に基づいて、仮説がきちんとあるところが科学的でわかりやすい。ただ、本当に探究的な学びになっているかどうか(学びのレベル)については、今後生徒の姿を見取っていく必要があります、まだ現時点では成果を挙げることは難しいのではないかと思います。
- ・【あさひのラーニング】について 今回は、2年生の授業を参観させていただきました。Hさんをターゲットとして、Hさんのニーズにこたえられるような水筒入れをつくるという活動をしていました。班のTさんを中心に、試行錯誤しながら、素材の特性や使いやすさ、デザイン性等を考慮しながら、あふれるアイデアが少しずつ形になっていく1時間でした。また、技術科の見方・考え方を中心にしつつも、美術や家庭科、数学といった教科の知識技能、見方・考え方を使いながらゴールに向かっていく姿がありました。また、Hさんの意識は、自身がターゲットであるけれど「自分のため」というより「長野中の誰か」や「不特定多数の消費者」を視野に入れて発明品の開発に向かっていったように思います。自分ではなく多くの人たちに向けて、という視野の広さを感じるとともに、「デザイン思考」という「方法論」を学ぶ中にも、子どもの願いはどこにあるのかをつぶさに見取っていく大切さを感じました。探究的な学びにも関わりますが、身近で切実な問題にぶつかるからこそ、解決する方法論の有効性や利便性を実感できるのではと思います。Hさんにとっての「身近で切実な問題」とは何だったのか。それが「よりよい学校生活」や「発明品」とどのように結びついているのか、考えさせられる1時間でした。あさひのラーニングの時間を通して、様々な探究の方法を学んでいくであろう子どもたちが、それをどのように取捨選択して、活用していくのがとても楽しみになる時間でした。

【分析】公開研究会では、今回の新設教科と総合的な学習の時間（あさひのプロジェクト）を公開した。それにより俯瞰的な視点で今回の実践研究を参観していただくことができ、数値の上では肯定的に評価していただいた。探究的な学びを支えるためには、「問いの立て方」等、探究の方法論を身に付けておくことが必要であるとの本校の研究について概ねご理解いただけたものと考え。今後は、特例校でなくても実践できる汎用的な取組として提案してけるよう研究を深めていきたい。